

2023年(令和5年)9月25日(月曜日)

電波新聞

ものづくり 最前線

ノーブルエレクトロニクスベトナムの外観



帝国通信工業のベトナム工場、ノーブルエレクトロニクス

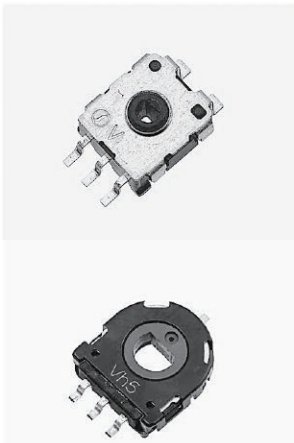


野村 社長

トロニクスベトナムは、ハノイ市の中心から30キロ西にあるホアラク・ハイテクパークで操業する。帝国通信工業の100%出資で、2006年6月に設立された独資企業だ。敷地面積約2万7000平方メートル、延べ床面積約7000平方メートル。従業員約300人。

「『品質』を第一に、お客さまより『信頼』と『ご満足』を得ること」(野村修社長)を掲げる。行動指針の主な内容として、①コスト競争意識(さらに現場、現物、現状)②省人化、省力化を進め、NOBLE E I O Tを実現③品質維持のための改善(原因を明確

ノーブルエレクトロニクスベトナム (ハノイ近郊 ホアラク・ハイテクパーク)



ロータリーポジションセンサーZRS07PVC(上)と011PVC

達、生産効率化に配慮した自動化・省人化の生産設備で、一貫生産ライン

達、生産効率化に配慮した自動化・省人化の生産設備で、一貫生産ライン

「品質第一」の行動指針掲げる

顧客の信頼と満足めざす

にし不良が発生しない改善を繰り返す。再発生不良を無くするための構造改善・改良など④環境保全(廃棄物の削減、リサイクル)、を打ち出す。

独自のセル生産方式と管理方式を導入し、地球環境に対応した材料調

独自の方式

独自のセル生産方式と管理方式を導入し、地球環境に対応した材料調

大型設備の投資も直近では客先の脱中国

野村社長は「シンガポール・ノーブル(販社)と協力し、ベトナムの納入先お客さまへのサポート体制も強化している」と意欲を見せる。

LED化などで、ISOで環境目標を設定し取り組んでいる。

コロナ前から、客先セットの半導体不足の影響、またコロナ明けにかけては客先の製品在庫調整などで、生産品目によっては影響を受けた。しかし、今春以降は受注回復傾向にある。



JETRO商談会

の要請もあり、BCP(事業継続計画)対応としてグループ内の中国工場の生産品の一部製品移管を実施中。年内の量産開始を予定する。

またロータリーセンサーのリニューアルに伴って生産ラインの新設を計画し